17

故郷

堺の街の妙国寺、
その門前の庖丁屋の
浅葱納簾の間から
光る刃物のかなしさか

御寺の庭の塀の内、
鳥の尾のよにやはらかな
青い芽をふく蘇鉄をば
立つて見上げたかなしさか。

御堂の前の十の墓、
仏蘭西船に斬り入つた
重い科ゆゑ死んだ人、
その思出のかなしさか。

いいえ、それではありませぬ。
生まれ故郷に来は来たが、
親のない身は巡礼の
さびしい気持になりました。

掲出歌集　『晶子詩篇全集』昭和4（1929）年
初　出　「線と影」「三田文学」明治44（1911）年6月
（晶子33歳）

・所 在 地　妙国寺境内（堺区材木町東４丁１－４）
　　阪堺線妙国寺前駅下車東へ徒歩５分
・建　　立　平成 14 年 12 月 8 日（成道会の日）
　　妙国寺住職岡部泰鑑
・書　　仲西龍信（上行院住職）
・拝 観 料　400 円
・連 絡 先　妙国寺　072-233-0369

平成14（２００２）年、岡部泰鑑氏が妙国寺住職に就任した時、当寺を詠った与謝野晶子の詩を石碑にしておきたいと詩碑を建立された。碑石は香川県産の庵治石である。

明治44年、この頃の晶子は鉄幹渡欧のための費用を捻出するため苦心していた。しかも、二度目の双子出産と、その後に患った心臓病と腎臓病による入院で、心身ともに疲労困憊していたようである。そのような中で、「堺事件」や妙国寺名物の蘇鉄、堺の地場産業の刃物などを巧みに詠み込み、さらに親が亡くなった故郷のさびしさを表している。

なお、父鳳宗七は明治36年９月14日、母津祢は明治40年２月14日に死去している。

※妙国寺には、徳川家康や正岡子規の石碑もある。幕末フランス水兵を襲撃した「堺事件」を起こした土佐藩士が切腹した寺である。